

研究者：宋 聖経、竹内 夏海、設楽 智也、大川口優真、大川口美優、澤田 優花、小林 史佳、東濱菜々子、崔 芙麟、菊池 沙羅、森下 広翔（所属：東北大学歯学部 歯科医療研究会）

研究題目：仙台市の国際姉妹都市 光州市でのフロス推進方略の深層研究 および歯学生交流

目的：

活動①：去年実施した韓国の高等学校でのアンケートに続いて、韓国の大学生を対象に、口腔保健意識およびデンタルフロスの使用状況を調査し、去年の調査結果から見出した「家庭内の垂直的なフロス使用指導の重要性」という仮説を検証して、ハローフロスプロジェクトへの活用方法を具体化する。

活動②：仙台市の国際姉妹都市である光州広域市の全南大学およびソウル市の慶熙大学歯学部の学生に向けて、韓国ではあまり知られていない仙台市や東北大学、そしてハローフロスプロジェクトを紹介し、歯学生同士の交流やデンタルフロスの啓発に関する意見交換を行う。これにより、国際的な歯学生ネットワークの構築や、国際姉妹都市間の友好促進につなげるとともに、異なる視点を取り入れることでハローフロスプロジェクトのさらなる発展を目指す。

対象および方法：

活動①：韓国の光州広域市及びソウル市の大学生を対象に、2024年7月、仙台市の高等専門学校、専門学校で実施した「ハローフロスプロジェクトフォローアップアンケート」で使用された質問を追加した、「改訂 みなさんのオーラルケアに関するアンケート」¹⁾を実施する。実施方法としては、Google フォームの QR コード付きポスターを各大学の中央図書館に掲示し、回答を収集する。

表1 アンケートの実施概要

	日本：仙台市	韓国：光州広域市	韓国：ソウル市
実施機関	仙台高等専門学校（広瀬、名取）、菅原学園	全南大学	慶熙大学
実施日	2024年7月23日～26日	2025年3月4日～7日	2025年3月4日～7日
実施方法	Google form	Google form	Google form
回答数	648人	100人	105人

1) アンケート全問（日本語訳）はこちらのリンクからご覧いただけます。

<https://forms.gle/UZ4VRR1qNgSo23AL9>

活動②：光州広域市とソウル市の歯学部学生に向けて、仙台市、東北大学、そしてハローフロスプロジェクトを紹介する英語プレゼンテーションを行った後、大学見学や歯学生との交流を実施する。



図1 仙台市、東北大学、歯科医療研究会紹介



図2 ハローフロスプロジェクト紹介

結果および考察：

活動①：アンケートの内容の中、Q9、Q15 の結果を抽出し、表2、3及び図3にまとめた。

表2 23、24年度「Q9. デンタルフロスを知っていますか。」の日韓の結果

選択肢	24年度調査			23年度調査	
	日本：仙台市	韓国：光州広域市	韓国：ソウル市	仙台	韓国
全く知らない	10%* ¹	0%* ¹	1%	28%* ¹	2%
見たこと・聞いたことある	30%	11%	20%	34%	24%
使ったことある	39%	52%	43%	27%	60%
定期的に使用中	21%* ²	37%* ^{2,3}	36%	11%* ²	14%* ^{2,3}

表3 「Q15. 家族の中、デンタルフロスを使用している人はいますか。(複数選択可)」の日韓の結果

選択肢	日本：仙台市	韓国：光州広域市	韓国：ソウル市	差（仙台市 - 光州市）	χ^2 検定
父親	18%* ⁴	45%* ⁴	39%	-27%	p<0.01
母親	28%* ⁴	49%* ⁴	44%	-21%	
兄弟・姉妹	12%	28%	23%	-16%	p<0.01
誰も使用していない	25%	14%	25%	11%	p<0.01
分からない	38%	15%	13%	23%	p<0.01

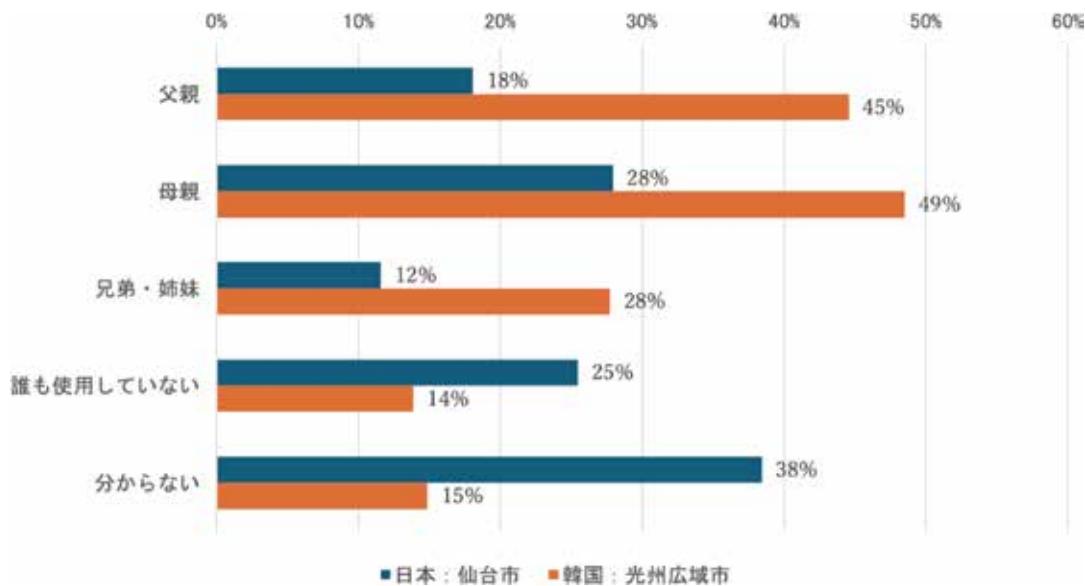


図3 「Q15. 家族の中、デンタルフロスを使用している人はいますか。(複数選択可)」
仙台市—光州広域市：国際姉妹都市間の比較

アンケート結果；表2、3及び図3から目立った違いを以下に挙げる。

①ハローフロスプロジェクトの展開により、仙台市の若者のフロス認知度^{*1}と使用率^{*2}は昨年より向上したものの、国際姉妹都市である光州広域市や韓国の大学生と比較すると依然として低い状況にある。

②韓国では、2023年度の高等学校での調査結果と比較して、2024年度の大学での調査においてフロスの使用率が大幅に高いことが分かった。^{*3}

③表3・図3から、韓国は親世代のデンタルフロス使用率が仙台より非常に高いことが分かった。^{*4}

→①と②に関しては活動②の歯学生交流で触れているため、ここでは③について考察する。

23年度の報告書では、「家庭での垂直的な指導が若者のフロス使用率向上に重要であり、家族単位でのアプローチとプロジェクトの対象拡大が必要」と結論づけた。これを受け、歯科医療研究会はこれまで大学生などの若者を対象に活動してきたが、25年1月に開催された「みんなで子育てフェスタ＆健康フォーラム」に出展し、家族単位の来場者にフロス啓発活動を実施した。しかし、現在のリーフレットは若者向けのため、子育てフェスタの来場者には十分なアピールができず、新たなハローフロスプロジェクトの展開が必要であることを強く実感した。この調査は、その新プロジェクトの妥当性を検討するために企画された。

今年の調査の核心は、家族構成員のフロス使用率であった。韓国・光州広域市では、若者のフロス認知度・使用率が仙台市を上回っていたが、これは親世代の高いフロス使用率が子世代の使用につながっているためと考えられる。実際に、光州市では父母ともに約50%のフロス使用率を示したのに対し、仙台市では父親18%、母親28%と大きな差が見られた。さらに、仙台市では「分からぬ」という回答が光州市より大幅に多かった。この家族間の口腔ケアへの意識不足・無関心は、フロス使用率向上の大きな課題である。

この結果から、ハローフロスプロジェクトはこれまで若者を中心に展開してきたが、親世代のフロス使用率向上が結果的に若者の使用率向上につながることが明確になった。現在の啓発リーフレットは若者向けの内容となっているが、今後は親世代を対象とした啓発活動を開発し、親から子へ自然とフロス使用習慣が引き継がれる「フロス使用の世代継承」を目指す、ハローフロスプロジェクトの新たな展開を推進していきたい。

活動②：韓国歯学部の学生とアンケート結果の中で特に目立った点について議論し、歯学生交流を行った。



図4 全南大学



図5 慶熙大学



図6 全南大学歯学部の学生と

活動①の①と②の結果について韓国の歯学部の学生と議論した。韓国で大学からフロスの使用率が急増する理由として、韓国は長い受験生活から解放された後、外見を意識し始める、いわゆる「大学デビュー」層が多いが、綺麗な口元は清潔感に直結するため、多くの大学生が積極的にフロスを使用するという意見が最も説得力があった。この点を活かして今年からは、口元の美しさとフロスの重要性を結びつけた情報発信を積極的に行い、日本の大学生のフロス使用率向上につなげていきたい。

またハローフロスプロジェクトの背景、取り組み、成果などを紹介した後、リーフレットを配布し、プロジェクトの改善方策、これからの展開について議論した。その内容を以下にまとめる。

韓国の歯学部の学生との「ハローフロスプロジェクト」に関する意見交換

- 若者にアピールするため、TikTok や YouTube ショートなどのデジタル媒体を活用した啓発活動を展開する。
- 仙台出身のインフルエンサーヤ YouTuber とコラボレーション企画を実施する。
- 開業している先輩の歯科医院にリーフレットを設置し、患者教育の際に活用してもらう。
- 全南大学歯学部にも「歯科医療研究会」というサークルがある。日韓の各大学歯学部にも似たようなサークルがあるので、これらと協力して各地域に適した「ハローフロスプロジェクト」を展開する。

今回の歯学生交流から、「ハローフロスプロジェクト」に応用可能なアイデアを得るだけでなく、両国の口腔保健向上に向けた新たな視点を共有できた。また、全南大学・慶熙大学と東北大歯学部は、コロナ禍以降、学生交流が途絶えていたが、今回の訪問をきっかけに交流を再開できた。この2024年度海外歯科保健医療活動を通じて、日韓の歯学生同士のつながりが深まり、今後のさらなる協力につながる貴重な機会となった。